

JMS NOTES



第57期 事業のご報告

2021年4月1日～2022年3月31日

(証券コード 7702)

目次	01	連結財務ハイライト
	02	ごあいさつ
	03	トピックス
	05	JMS PREMIUM REPORT 「ネオシールド」グローバル展開
	08	【コラム】 輸液麻酔デバイス開発室 室長インタビュー

09	【特集】 人事制度を改定 人事部長インタビュー
11	セグメント情報
12	システム別売上高
13	財務諸表
14	会社情報

JMS

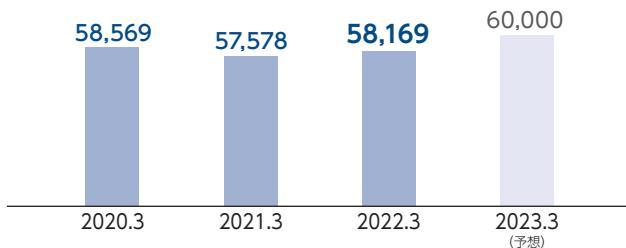
人と医療のあいだに…

連結財務ハイライト

売上高

581億69百万円

(百万円)



経常利益

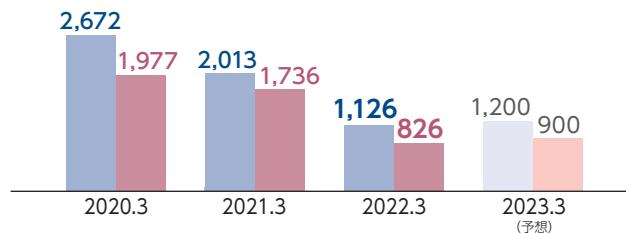
親会社株主に帰属する当期純利益

11億26百万円

8億26百万円

(百万円)

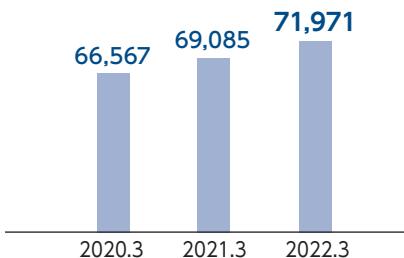
経常利益
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産

719億71百万円

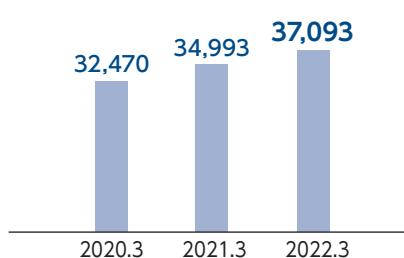
(百万円)



純資産

370億93百万円

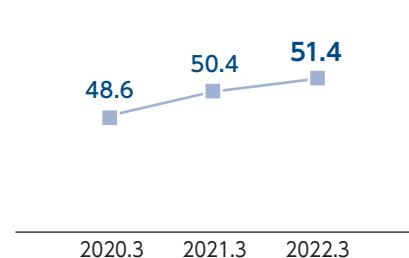
(百万円)



自己資本比率

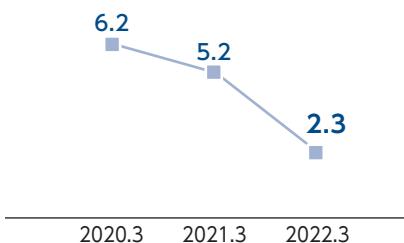
51.4%

(%)



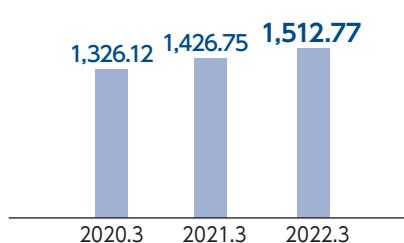
自己資本当期純利益率 (ROE) 2.3%

(%)



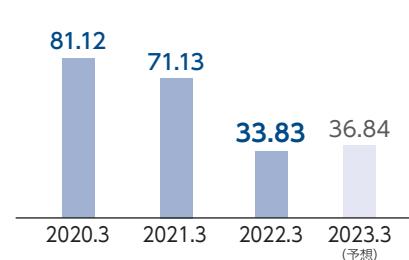
1株当たり純資産 1,512円77銭

(円)



1株当たり当期純利益 33円83銭

(円)



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

今般、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)に罹患された方々、感染拡大により生活に多大な影響を受けておられる皆様に心よりお見舞い申し上げます。また医療現場で治療にあたられている医療従事者の皆様、感染防止にご尽力されている皆様に深く感謝と御礼を申し上げます。

ここに、当社第57期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内では、薬剤調製・投与クローズドシステムや栄養システムの国際標準化機構(ISO)規格への切替えによる新規獲得、急性血液浄化事業の譲受け等もあり、売上高は拡大しました。また、海外においては、新型コロナの影響を受けた製品群の需要停滞が継続し、売上高は減少しました。

この結果、売上高は、円安による円貨換算額の増加も加わり、前連結会計年度に比べ5億90百万円増加の581億69百万円(前連結会計年度比1.0%増)となりました。

利益につきましては、海外生産拠点の現地通貨高や世界的な原材料仕入価格・海上運賃高騰の影響を受け、営業利益は9億80百万円(前連結会計年度比53.9%減)となりました。また、持分法による投資利益は減少したものの、補助金収入が増加したことにより、経常利益は11億26百万円(前連結会計年度比44.1%減)となり、前連結会計年度に特別利益で補助金収入が計上されていたことから、親会社株主に帰属する当期純利益は8億26百万円(前連結会計年度比52.4%減)となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8.5円とさせていただきます。これにより年間配当金は中間配当金(1株につき8.5円)と合わせまして1株につき17円となります。

当社は、新型コロナの一日も早い収束につながるよう、今後も市場で求められる製品の供給体制を強化し、医療機器メーカーとして引き続き貢献してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月



代表取締役社長 奥窪 宏章

【配当金の推移】



広島市へワクチン接種用シリンジを寄贈 生産能力を増強し、増産体制を整備

当社が開発・製造するシリンジは、新型コロナウイルスワクチン接種用として国や施設等へ製品供給しています。このたび、小児も含め拡大する接種需要を受け、さらにはアフターコロナの定期接種による安定供給を見据えて、生産能力を年間約3,000万本まで増強してまいります。

また、広島市が進めている新型コロナウイルスワクチン接種に当社製シリンジを役立てていただきたいと考え、「針埋込型シリンジ」3万本を同市に寄贈。2022年3月23日に広島市役所で開催された贈呈式では、松井一貫市長から感謝状を授与されました。



贈呈式の様子



医療貢献と地域発展の取り組みを評価 人工心肺製品が「出雲ブランド商品」に認定

当社の出雲工場（島根県）で製造している人工心肺製品が、出雲ブランド商品に認定されました。同工場は、地域の皆様とともに発展し続け、グループのマザー工場として当社の生産活動を中核で支えてまいりました。認定を受けた人工心肺製品は、設計から成形、組み立て、品質管理までの一貫体制のもと、お客様のご要望に応じたオーダーメイド製品として提供しております。

このたびの認定を受け、医療貢献のためのさらなる品質・技術の向上と地球環境への配慮に努めるとともに、地域社会とのつながりを一層強化してまいります。



人工心肺製品

出雲工場の紹介動画



フマキラーと共同開発したアルコール除菌剤 「メディクリーン」を医療機関向けに販売

当社はアルコール除菌・ウイルス除去剤「メディクリーン」をフマキラー株式会社と共同開発し、2021年12月13日から医療機関向けに販売しています。成分として発酵アルコールとアルカリイオン水に天然抗菌成分のグレープフルーツ種子エキスを配合。アルコールが効きにくいウイルスにも速効性を発揮します。

衛生環境やウイルス対策に役立つ製品の提供を通じ、より安全でクリーンな医療環境の実現を目指してまいります。

院内環境に調和した、
シンプルで優しい
デザインを採用



社員の健康づくりに関する取り組みを評価 経済産業省「健康経営優良法人2022」に認定

当社は、医療に貢献する企業として「健康宣言」を定め、「ワーク・ライフ・バランスの充実」「健康維持・増進」「快適な職場環境」の各視点から、さまざまな取り組みを積極的に行っています。このたび、その取り組みが評価され、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2022」に認定されました。

これからも社員とその家族の皆さんが生き生きと安心して生活できる環境づくりを目指して、取り組みを一層推進してまいります。



2022
健康経営優良法人
Health and productivity

健康宣言

当社グループは、「医療を必要とする人と支える人の架け橋となり、健康でより豊かな生活に貢献することですべての人々を笑顔にします」という企業理念を実現するため、社員一人ひとりが心身の健康意識を高め、健康で働き続けることができる会社を目指します。

2022年3月期決算説明動画配信

株主ならびに投資家の皆様に、当社の事業内容や直近業績、取り組みなどをより知っていただくため、決算説明動画のオンデマンド配信を開始いたしました。

当社ホームページにて半期と期末決算の年2回の配信を予定しています。

決算説明動画配信



<https://www.jms.cc/ir/movie.html>



「ネオシールド」のグローバル展開を開始 日本で培った実績と品質で 世界の医療に貢献。

当社は閉鎖式薬剤移注システムとして「ネオシールド」を開発しました。高い閉鎖性と直感的な操作性を併せ持つ点が、医療現場で高く評価され、売上は年々堅調に増加しています。2022年は日本国内での販売を一層強化するとともに、海外展開をスタートさせます。ホスピタルプロダクツビジネスユニット(以下 BU)の門廣秀之推進部長に、海外における戦略や今後の展望などをインタビューしました。



執行役員
ホスピタルプロダクツBU 推進部長 門廣 秀之

Q 「ネオシールド」はどのような製品でしょうか。

抗がん剤曝露防止の医療機器

抗がん剤を安全かつ簡単に取り扱うことができる医療機器です。抗がん剤は、がん治療において高い治療効果がある反面、それを取り扱う人にも影響を及ぼす曝露リスクがあります。そのため、抗がん剤を取り扱う医療従事者や、治療を受けている患者さんやそのご家族など、がん治療に関わるすべての人を抗がん剤の曝露から守ることは重要な課題になっています。

「ネオシールド」は、器材の接続部に閉鎖コネクタ技術を採用。容器内を等圧に保つことで抗がん剤が外部に触れたり漏れたりすることなく、医療従事者が安全に調製を行うことができ、閉鎖コネクタでつながる輸液セットからスムーズに患者さんに投与することができるのが大きな特長です。

Q 開発の背景を教えてください。

自社の閉鎖コネクタ技術を応用

従来から、抗がん剤の曝露対策として閉鎖式薬剤移注システムの有効性が認められていましたが、輸入品しかなかったためコストが高く、普及は進んでいませんでした。

そこで、当社は医療現場の声を聞き、自社の輸液分野で培ってきた閉鎖コネクタ技術を応用して、抗がん剤を安全かつ簡単に取り扱うことができる「ネオシールド」を開発しました。市場ニーズをとらえた迅速なラインナップ拡充を進め、医療現場での認知度は年々高まり、今では主力製品の一つに成長しました。

Q 2022年から「ネオシールド」の海外展開をスタートします。

領域をしぼった高付加価値製品

海外の市場規模は、日本国内よりも格段に大きく、一般的な製品ではスケールメリットの面から太刀打ちできません。しかし、「ネオシールド」はがん治療(化学療法)領域にフォーカスした付加価値のある製品です。高い訴求力が期待でき、海外でも戦っていけると判断しました。ここでしっかり結果を出して、第2弾、第3弾…と日本国内で培った付加価値のある製品を海外市場に投入していきたいと考えています。

♥ クローズドシステムを利用した
安心設計

+ シンプルな構造で
簡単操作

↻ 作業工程を削減し
効率性アップ



ネオシールド

Q 海外展開に向けての具体的な戦略を教えてください。

東南アジアで展開

当社は現在、海外に5つの生産拠点と3つの販売拠点を設置しています。まずは東南アジアでの展開を目指して、シンガポール工場で海外向け製品を製造します。ただ、ゼロから海外で製造するのは非効率な部分も予想されます。日本国内向け製品を生産する出雲工場(島根県)と協力しながら、グループの資源を有効活用して海外展開を推進していきます。



シンガポール工場



出雲工場

部署間連携

海外市場の開拓は、司令塔であるグローバルマーケティング本部と、開発と生産を担うホスピタルプロダクツBUがタッグを組んで進めています。海外のグループ会社とのコミュニケーションも、グローバルマーケティング本部だけが担うのではなく、ホスピタルプロダクツBUもしっかり介在し、三位一体で対応しています。また、海外において医療機器を販売するには、ライセンス取得が必要不可欠なため、薬事・品質保証本部とも密に連携して対応していきます。

薬事承認

医療機器は、国によって顧客要求事項および規制要求事項が大きく異なります。今回の海外展開にあたっては、その準備段階として、米国食品医薬品局(FDA)の「510(k)」と、EUの安全基準認証「CEマーク」を取得しました。この認証を大きな根拠として各国の規制に準じた申請を行い、承認取得を進めていきます。

販売方針

日本と海外では販売スタイルが異なります。日本では一般的に、お客様と直接対面をしてコミュニケーションを取り

ながら顧客活動を進めていきますが、海外は代理店を介しての販売が主流となります。海外展開においては、海外のグループ会社と連携して代理店へのプロモーションを強化するとともに、新興国での普及も見据えたグローバルな価格競争力を高めるよう、これまで以上に生産性向上を意識しつつコストカットにも努めます。

加えて、海外でのエビデンス構築も重要です。日本国内での実績をしっかりとアピールしながら、現地の病院と共同でエビデンスをつくっていきたくと考えています。

Q

「ネオシールド」をどのような製品に育てていきたいですか。

声を反映して改良重ねる

これからもお客様の声を大事にして改良を重ね、さらに使い勝手の良い製品に育てていきたいです。

日本国内で高い評価をいただいている製品なので、海外のお客様にもぜひ使っていただきたい。それを成し遂げるために、「ネオシールド」はもちろんJMSという会社を知ってもらえるよう、プロモーション活動やセールス活動をJMSグループが一丸となって精力的に推し進めていきます。



現場感覚を忘れずにマネジメント 付加価値の高い新製品を投入し続けたい。

当社では、営業、研究開発といった業務内容別ではなく、担当領域／製品別に部署を区切るビジネスユニット型の組織体制を採用しています。輸液・栄養領域製品は、ホスピタルプロダクツBUが担当。2022年4月1日付けで輸液麻酔デバイス開発室の室長に就任し、若きリーダーとして同室を引っ張る竹内正彦にインタビューしました。



ホスピタルプロダクツBU
開発部 輸液麻酔デバイス開発室 室長 竹内 正彦

▶ 開発業務を幅広く経験

2004年に入社してから8年間、私は腹膜透析関連製品の開発を担当しました。腹膜透析は自分の腹膜を介して血液から毒素を除去する治療法です。患者さん自身が自宅や職場などでバッグ交換やカテーテルケアを行うので、血液透析に比べて通院回数を減らせる反面、感染症を防ぐための清潔な操作を身に付ける必要があります。人口の高齢化が進むなか、高齢の患者さんでも安全・簡便・清潔に使用できるコネクティングシステムの開発に注力しました。

2012年に、輸液麻酔デバイス開発室の前身である第1研究室に異動。閉鎖式薬剤移注システム「ネオシールド」の立ち上げに携わりました。「抗がん剤の曝露防止」というコンセプトを実現させるため、仕様検討や設計を主に担当。設計、検証、データ収集、改良を繰り返し、安全かつ高品質な製品を目指しました。研究室内にとどまることなく、医療機関への訪問を重ね、現場のニーズを直接ヒアリングして課題解決するプロセスを大事にしました。

入社から一貫して製品開発を担当し、企画構想から設計、製造部門への引き渡しまで幅広い業務を経験してきたことが、私の強みになっています。

▶ お客様に驚きと喜びを

開発部の役割は、医療従事者や患者さんの思いを受け止め、カタチにすることです。驚きや喜びを感じていただけるような製品を生み出すことが醍醐味。輸液麻酔デバイス開発室では、約20人のメンバーと共に「ネオシールド」のさらなる品質向上と原価低減、そして、収益の新たな柱となる新製品の開発に励んでいます。

このたびの室長就任にあたり、メンバーには開発者としての理想像を示しました。「一人ひとりが設計構想から工場への生産移管までを主体的に行えるようになる」。設計スキルや開発力だけでなく、コミュニケーション力や計画立案の精度など、個々の能力を底上げし、組織の継続的な成長につなげたいと考えています。

当社が中長期的に成長していくためには、付加価値の高い新たな製品を世の中に提供し続ける必要があります。先を見越した製品の開発とそのマネジメントが、室長である私の使命。これまでの仕事で培った、現物を“見る”“触る”“理解する”“想像する”という現場感覚を生かし、日々の業務に取り組んでいきます。

特集 人事制度を改定 人事部長インタビュー

意識改革と行動変容を促す施策を展開 社員の成長が会社の成長につながる。

当社は、人材育成の強化と労働環境の整備をさらに進めるため、10年ぶりに人事制度を改定しました。中堅層の処遇改善や360度評価の導入などをはじめとした施策を定め、2022年4月1日から運用を開始しています。今回は人事部長の末田穰に、社員の成長を促し組織を活性化させる新しい人事制度のポイントを聞きました。



人事部 部長
末田 穰

時代に合わせて人事戦略

このたびの改定にあたっては、大きく4つの背景があります。まずは、時代の変化への対応です。2011年に制定した人事制度(旧制度)は、運用開始から10年が経過し、さまざまな見直しが必要な時期にきていました。次に、2020年に策定した中期経営計画《GAIN-RG 2023》の実現です。重点施策の一つである

人事制度改定の背景

経年的な課題への対応

旧制度の課題や
価値観変化等への対応

中期経営計画達成

GAIN-RG 2023実践に向けた
人事課題の抽出

社員の声

社員が感じる雰囲気や職場
実態を踏まえた改善ポイント

社会からの要請への対応

社会(行政や一般社会)から
求められる事項への対応

「グループ経営基盤の強化」を推進するため、雇用環境の変化を踏まえた人事制度の見直しや、グローバル人材の確保、育成制度の確立などを進めています。そして、社員の要望です。人事部に入ってくる現場からの声を見過ごさず、従業員満足度を高めていきたいと考えます。さらに、定年延長や障害者雇用推進といった、社会からの要請にも応えていきます。

チャレンジできる環境づくり

会社が成長するためには、社員一人ひとりの成長が不可欠です。人事制度設計では、社員個々の成長が、会社や組織の成長につながることを強くイメージ。社員の意識改革や行動変容に結びつく制度づくりに重点を置きました。

新しい人事制度のスローガンは、「人材育成の仕組みを見直し徹底的に強化し、頑張る社員を応援し、機会を与え、その成果に報いる」。社員一人ひとりが「ありがたい姿」を実現するための仕掛けを盛り込んでいます。

改定の主なポイントは①組織全体での人材育成強化、②労働環境のさらなる整備の2点です。

新人事制度の骨子

① 組織全体での 人材育成強化

1. 職能資格等級の見直し
2. 研修体系の見直し
3. 目標管理制度の運用変更
4. 昇格要件化と昇格試験の運用変更
5. 360度評価の導入
6. 選抜人材の育成体制を確立

② 労働環境の さらなる整備

1. 人事考課の仕組み改定
2. 中堅層の処遇改善
3. 職位の見直し
4. 単身赴任や借上げ社宅制度の変更
5. 定年延長
6. シニア層の役割転換

① 組織全体での人材育成強化

社員の処遇の根幹である職能資格制度では、等級基準や評価視点などを見直して明確化。求める役割や能力を分かりやすく表現し、個々の能力アップを図ります。加えて、研修体系も見直し、昇格要件や昇格試験の運用方法も変更しました。また、新たに360度評価を採用。部下から見た上司評価を加えることで、管理職層も各自の啓発ポイントを把握でき、能力アップにつながります。

② 労働環境のさらなる整備

中堅社員を中心に処遇を改善。賃金水準を改定して、給与のベースアップを行いました。子育て世代でも金銭的な余裕を持ち、仕事に打ち込める環境をつくります。また、人事異動や転勤はキャリア開発に欠かせないものと考え、単身赴任や社宅の制度を変更し、対象者の金銭的な負担を最小限に抑えるようにしました。さらに、高年齢層の活躍を推進するために、定年を60歳から65歳に引き上げる計画で、60歳超のシニア層も安心していきいきと働けるようにします。

社員の成長を応援

当社は、グローバルな存在感のある百年企業を目指して、2030年長期ビジョン「未来の医療を先取りした新たな価値の創造を実現し、世界の人々の健康とQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の一層の向上を支える企業になる」を掲げ、次世代事業の創

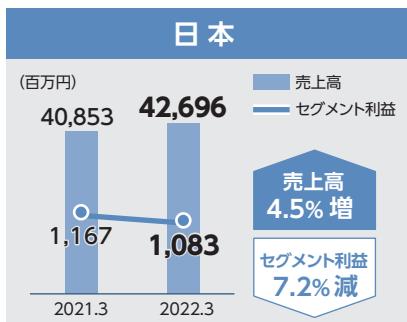
出やグローバル体制の強化などに精力的に取り組んでいます。そうした中長期的な事業戦略に合わせ、当社が求める人物像を「自身のWILL(やりたいこと)を持ち、その実現に向けた課題を認識し、主体的な行動とチャレンジを恐れない人材」と明言しました。会社が個々の社員に期待する人材要件を明確にしたことで、社員もどのような能力を伸ばせばよいのか、方向性を知ることができます。

このたびの改定を機に、人事制度は処遇を決めるツールではなく、社員の成長を実現させるための仕掛けと理解されること、そして効果的に運用することで、中長期的なキャリアビジョンを持てる人材を育成し、会社の継続的な成長につなげていきたいと考えています。



■ 所在地別

(注)セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

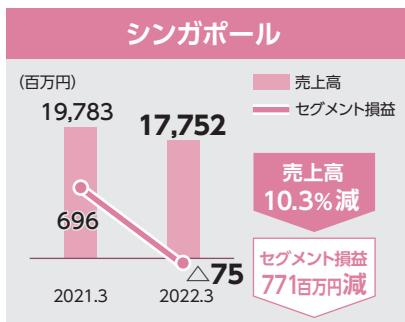


売上高 426億96百万円

薬剤調製・投与クローズドシステムや国際標準化機構 (ISO) 対応に伴う経腸栄養関連用品、事業譲受した急性血液浄化の取扱品目が増加しました。

セグメント利益 10億83百万円

増収効果はあるものの、急性血液浄化事業に係る費用増加や医療施設への訪問規制の緩和に伴う販売活動費の増加等により減少しました。



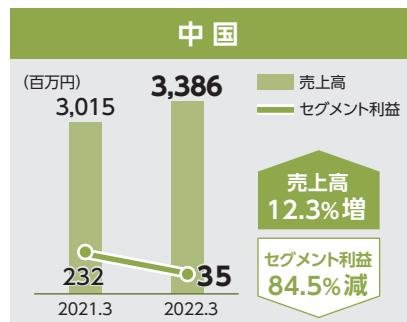
売上高 177億52百万円

新型コロナウイルスの影響による需要停滞の継続から成分献血用回路や血液バッグの受注が減少しました。

セグメント利益 △75百万円

労務費の低減があるものの、減収影響に加え、原材料価格の高騰による原価率上昇の影響により減少しました。

*シンガポールは、生産体制を相互に補完し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。

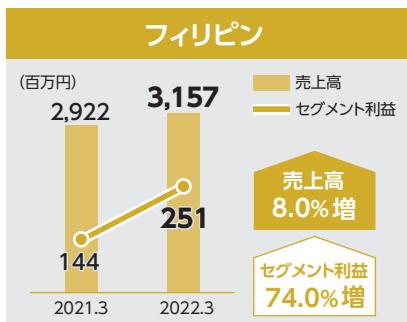


売上高 33億86百万円

中国市場での透析患者数の増加を受け、AVF針 (血液透析用針) や人工腎臓用血液回路が増加しました。

セグメント利益 35百万円

増収効果はあるものの、原材料価格高騰の影響や労務費の増加により減少しました。

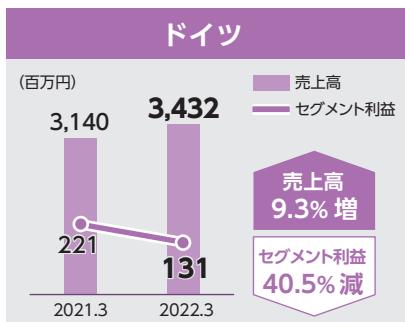


売上高 31億57百万円

欧州向けAVF針や北米向けの成分献血用回路が増加しました。

セグメント利益 2億51百万円

増収効果に加え、原料の切替えなどによる効果で増加しました。

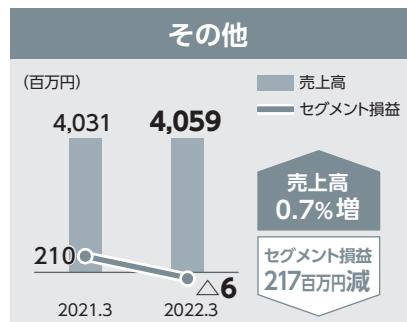


売上高 34億32百万円

欧州向けAVF針が増加しました。

セグメント利益 1億31百万円

海上運賃の高騰による仕入原価の増加により減少しました。



売上高 40億59百万円

*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

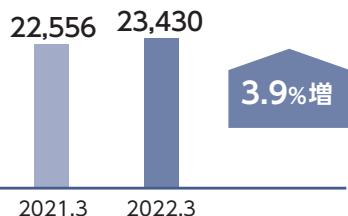
セグメント利益 △6百万円

■ システム別売上高

輸液・栄養領域

売上高 **234億30**百万円

(百万円)

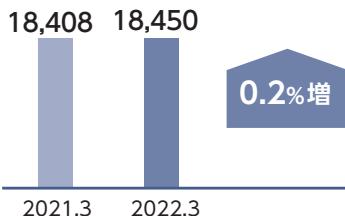


システム拡充を図った薬剤調製・投与クローズドシステムやISO規格への切替えによる経腸栄養関連用品の新規獲得により増加しました。

透析領域

売上高 **184億50**百万円

(百万円)

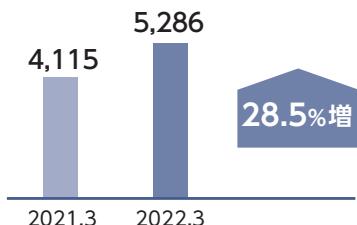


中国市場の拡大に伴い血液透析装置、AVF針、人工腎臓用血液回路が増加した一方、北米向けAVF針の減少により微増となりました。

外科治療領域

売上高 **52億86**百万円

(百万円)

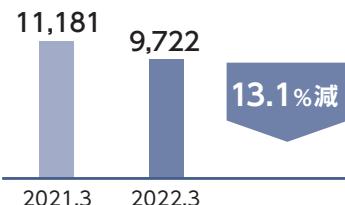


事業譲受した急性血液浄化の取扱品目が増加しました。

血液・細胞領域

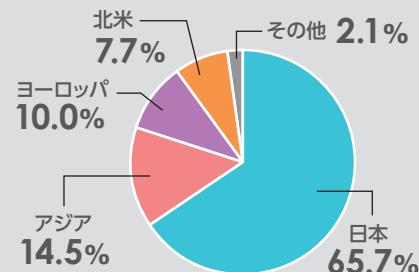
売上高 **97億22**百万円

(百万円)

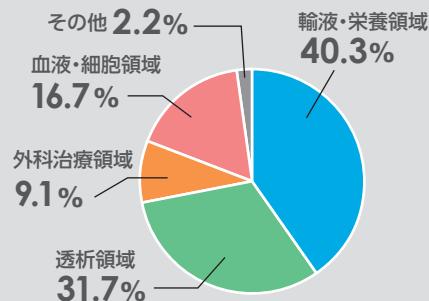


需要停滞が続く海外で、成分献血用回路や血液バッグが減少しました。

■ 地域別売上高構成比



■ システム別売上高構成比



輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、シリンジ、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連用品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析領域

血液透析装置、ダイアライザ、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療領域

膜型人工肺、人工心臓装置、人工心臓用回路、血管造影用カテーテル、急性血液浄化関連用品、他

血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

財務諸表《連結》

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 2021年3月31日現在	当連結会計年度 2022年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	38,983	40,042
現金及び預金	5,968	6,605
受取手形及び売掛金	16,415	16,077
棚卸資産	15,687	16,533
その他	912	825
固定資産	30,101	31,928
有形固定資産	24,105	25,460
無形固定資産	692	1,035
投資その他の資産	5,304	5,432
資産合計	69,085	① 71,971
《負債の部》		
流動負債	22,545	22,847
固定負債	11,546	12,030
負債合計	34,091	② 34,878
《純資産の部》		
株主資本	34,772	35,182
その他の包括利益累計額	69	1,777
非支配株主持分	151	133
純資産合計	34,993	③ 37,093
負債純資産合計	69,085	71,971

>>> POINT 解説

- ① 資産合計** (前連結会計年度末に比べ28億85百万円増加)
 - ・有形固定資産が増加しました。
- ② 負債合計** (前連結会計年度末に比べ7億86百万円増加)
 - ・設備投資にかかる未払金や長期借入金が増加しました。
- ③ 純資産** (前連結会計年度に比べ20億99百万円増加)
 - ・為替換算調整勘定の変動によるものです。
- ④ 売上高** (前連結会計年度に比べ5億90百万円増加)
 - ・新型コロナウイルスの影響による需要停滞が継続する海外の減少を、需要回復傾向にある国内で補填し、増加しました。
- ⑤ 営業利益** (前連結会計年度に比べ11億46百万円減少)
 - ・海外生産拠点の現地通貨高や世界的な原材料仕入価格・海上運賃高騰の影響を受け減少しました。
- ⑥ 経常利益** (前連結会計年度に比べ8億87百万円減少)
 - ・持分法による投資利益が減少したことにより減少しました。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)	当連結会計年度 (2021年4月1日～ 2022年3月31日)
売上高	57,578	④ 58,169
売上原価	42,483	43,899
売上総利益	15,095	14,269
販売費及び一般管理費	12,968	13,288
営業利益	2,127	⑤ 980
営業外収益	376	373
営業外費用	490	227
経常利益	2,013	⑥ 1,126
特別利益	362	2
特別損失	153	53
税金等調整前当期純利益	2,222	1,075
法人税等	480	261
当期純利益	1,742	813
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	6	△12
親会社株主に帰属する当期純利益	1,736	826

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 (2020年4月1日～ 2021年3月31日)	当連結会計年度 (2021年4月1日～ 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,739	⑦ 4,399
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,251	⑧ △3,677
財務活動によるキャッシュ・フロー	△535	⑨ △499
現金及び現金同等物に係る換算差額	261	365
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	214	588
現金及び現金同等物の期首残高	6,008	6,222
現金及び現金同等物の期末残高	6,222	6,810

>>> POINT 解説

- ⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー** (前連結会計年度に比べ6億60百万円増加)
 - ・売上債権の減少によるものです。
- ⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー** (前連結会計年度に比べ4億26百万円増加)
 - ・事業譲受にかかる支出によるものです。
- ⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー** (前連結会計年度に比べ36百万円減少)
 - ・借入金の収支差額によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

会社情報

◎コーポレートデータ

(2022年3月31日現在)

設立 1965年(昭和40年)6月12日
 資本金 7,411,014,445円
 上場金融商品 東京証券取引所プライム市場
 取引所 (証券コード:7702)

※4月4日より東京証券取引所市場第一部から移行しました。

主要な事業内容 医療機器、医薬品の製造・販売
 及び輸出並びに輸入

従業員数 1,629人(グループ総数 5,359人)

◎役員

(2022年6月22日現在)

取締役	代表取締役社長	奥 窪 宏 章
	専務取締役	栗 根 康 浩
	常務取締役	桂 龍 司
	取締役	佐 藤 雅 文
	取締役	柳 田 正 吾
	社外取締役	池 村 和 朗
監査役	社外取締役	石 坂 昌 三
	常勤監査役	近 藤 良 夫
	社外監査役	水 戸 晃
	社外監査役	佐 上 芳 春

国内ネットワーク

株式会社ジェイ・エム・エス

【本 社】 広島本社／東京本社
 【支社・営業所】 東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所25カ所
 【工 場】 三次工場／出雲工場／千代田工場
 【子 会 社】 ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《医療機器の修理等》
 【関連会社】 株式会社ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

海外ネットワーク

【子 会 社】 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
 ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《製造・販売》
 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《製造・販売》
 ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
 バイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
 PT. ジェイ・エム・エス・パタム《製造・販売》
 ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
 ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《販売》

◎株式等の状況

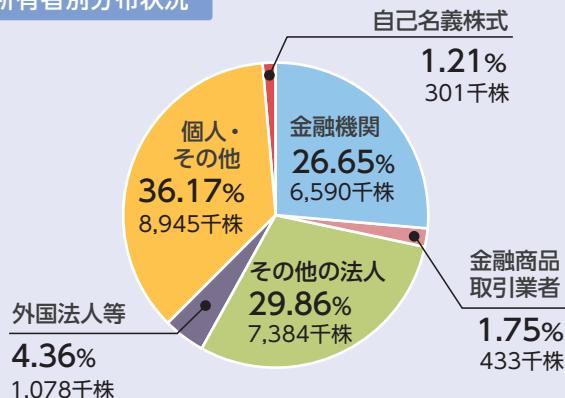
(2022年3月31日現在)

◇発行可能株式総数 …………… 65,000,000株
 ◇発行済株式総数 …………… 24,733,466株
 (自己株式301,499株を含む)
 ◇株主数 …………… 8,987名
 ◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,180	8.92
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.77
土谷 佐枝子	1,008	4.12
社会福祉法人千寿会	1,000	4.09
株式会社広島銀行	895	3.66
第一生命保険株式会社	861	3.52
大下産業株式会社	571	2.33
JMS 共栄会	558	2.28
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	525	2.15

(注)持株比率は、自己株式(301,499株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



株主メモ 証券コード：7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

公告の方法 電子公告とする。
(<https://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <https://www.jms.cc> JMS 検索



株式会社 ジェイ・エム・エス

広島本社

〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社

〈新住所〉
〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館11F
〈新電話番号〉03-6372-9120 〈新FAX〉03-6372-9121
※2022年6月27日より、東京本社を移転いたしました。

【表紙デザイン】

テーマ「人をつなぐ架け橋に」



大きなハートと虹の周りに集まる人をモチーフに構成。JMSの製品が、医療に従事する人々と医療を必要とする人々をつなぐ、安心の架け橋であることをイメージしています。

UD FONT

見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。